



# 国際協力 出前講座

独立行政法人国際協力機構 東京センター



国際協力  
機構



国際  
協力  
機構

JICA東京

**国際協力出前講座  
ガイドブック**

独立行政法人国際協力機構

**東京センター**

# はじめに

私たちの生活は、世界の国々とは切っても切れない相互依存の関係にあります。世界の課題は私たちの課題でもあり、決して他人事ではありません。今、持続可能な開発目標(SDGs)という世界共通の目標の下、地球に住むみんなが安心して満足した暮らしができるよう、今ある様々な問題を解決していくことが求められています。つまり地球規模で考え、できることから取り組んでいくことができる人材の育成が求められています。

JICAは、これまでの開発途上国での国際協力の経験を通じ培ってきた知見を市民の皆さんに伝え、日本と開発途上国の関わりや地球規模の課題等を理解して頂くことを通じ、持続可能な社会づくりに貢献しています。

JICAが実施する国際協力出前講座は、開発途上国で実際に活動してきた講師が途上国の課題、それに対する取り組み等の経験談を紹介するものです。

是非国際協力出前講座を活用して、開発途上国や国際協力の世界を身近に感じてみてください。

# 目次

はじめに	2
国際協力出前講座とは	4
依頼内容の傾向	12
活用方法紹介	
小学校編(荒川区立第二峡田小学校)	16
中学校編(新座市立第四中学校)	18
高等学校編(東京都立千早高等学校)	20
特別支援学校編(東京都立小平特別支援学校武蔵分教室 病院訪問部)	22
講座&講師紹介	
JICA海外協力隊編(手島祐子)	24
JICA海外協力隊編(石島裕太)	26
JICA海外協力隊編(浅見博)	28
JICA研修員編(ニコル チャビ)	30
JICA専門家編(國枝信宏)	32
JICA職員編(若井将貴)	33
よくある質問	34
国際理解教育/開発教育のためのJICAプログラムのご案内	36

本書では、ご依頼いただいた学校およびご協力いただいている講師の中から一部の方をご紹介します。学校などからご依頼いただくテーマ・ねらい・内容、ご紹介する講師の派遣国・職種・専門分野などは様々です。

# 国際協力出前講座とは

開発途上国の実情や日本との関係、国際協力の必要性について考える機会に、JICA 海外協力隊経験者や開発途上国からの研修員を講師として紹介するプログラムです。



## 講師はどんな人が来るの？

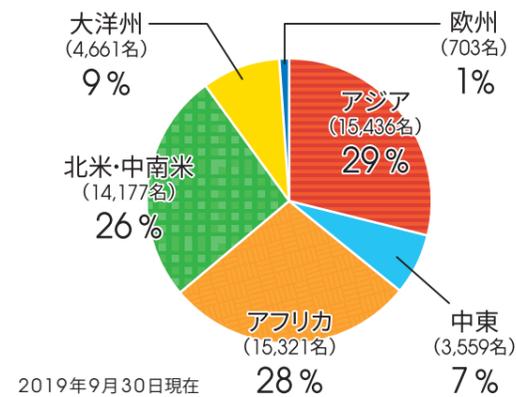
### (1) JICA 海外協力隊経験者

講師は主に、青年海外協力隊、日系社会海外協力隊などの JICA ボランティア事業の一環で派遣された経験者で、開発途上国の現場で協力隊としての活動経験があります。

活動地域は、アジア、アフリカ、中南米、中近東、オセアニアなどです(図参照)。(国数は70カ国以上)

活動分野は、教育・文化、農林・水産、保健・衛生、スポーツなどの9分野にわたり、職種は100以上あります。

### ■ JICA 海外協力隊事業実績(地域別)



2019年9月30日現在

JICA ボランティアの事業実績・派遣実績はこちらをご覧ください。

▶<https://www.jica.go.jp/volunteer/outline/publication/results/index.html>



※講師は JICA 海外協力隊として途上国での活動経験を持ちますが、プロの講師ではありません。「講師にお任せ」にせず、講座の目的や内容について講師と事前に打ち合わせが必要となります。

### (2) 開発途上国からの研修員

ご希望に応じて、開発途上国からの研修員を講師として紹介することも可能です。

JICA では、開発途上国から各分野の開発の中核を担う人材を研修員として日本に招き、それぞれの国が必要とする知識や技術に関する研修を行っております。

アフリカ、中東、アジア、大洋州の多くの国からの研修員を受け入れています。研修員による講座は、基本的に英語で行います。(通訳が必要な場合には、各自で手配が必要となります)

### (3) JICA 職員・専門家

テーマ・内容に応じて、JICA 職員・専門家が講師となる場合もあります。

## どんな話が聞けるの？

開発途上国の現場での実体験に基づいた話を聞くことができます。国際協力や途上国の文化や暮らしはもちろんのこと、環境、道徳、スポーツ、キャリア・進路など、ご希望のテーマや内容、時間に応じて講座を組み立てることができます。

その他、持続可能な開発目標 (SDGs) や SDGs に関する日本・海外・JICA の取り組み事例等も講座に取り入れています。

※基本的には講師の体験談を中心とした講座となります。特定のワークショップ実施を希望される場合には作成元の NGO 等に依頼されることを推奨します。

テーマ	ねらい・目的
国際協力 海外協力隊体験談	世界の課題や日本とのつながり、海外協力隊の活動を知り、自分たちにできることを考える
異文化理解	開発途上国の文化や生活を知り、異文化に対する理解を深める
キャリア教育	国際協力の仕事や講師自身の生き方を知り、自分の将来やキャリアを考える
人権教育	開発途上国が抱えている問題・課題を知り、人権について考える

講座内容は目次・項立ての一例です。

## どこで聞けるの？

学校、または指定の会場、オンライン (Zoom, Google, Teams 等) にて実施可能です。なお、オンラインで実施する場合、必要なアカウント等のご手配をお願いします。

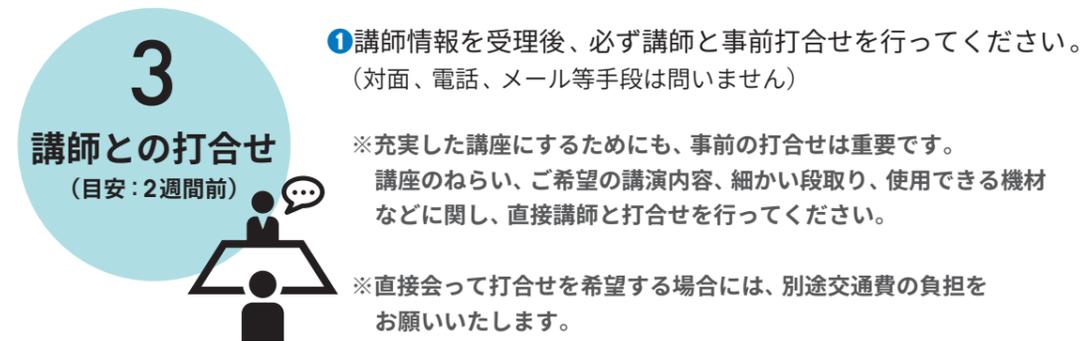
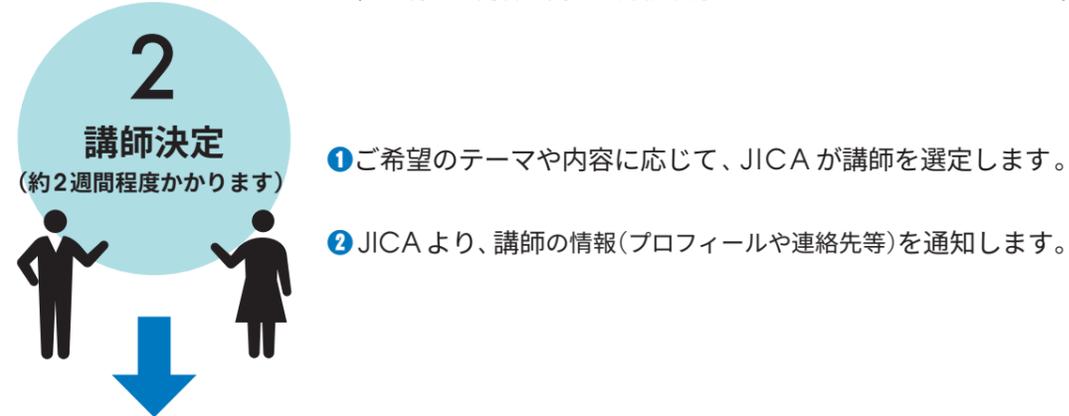
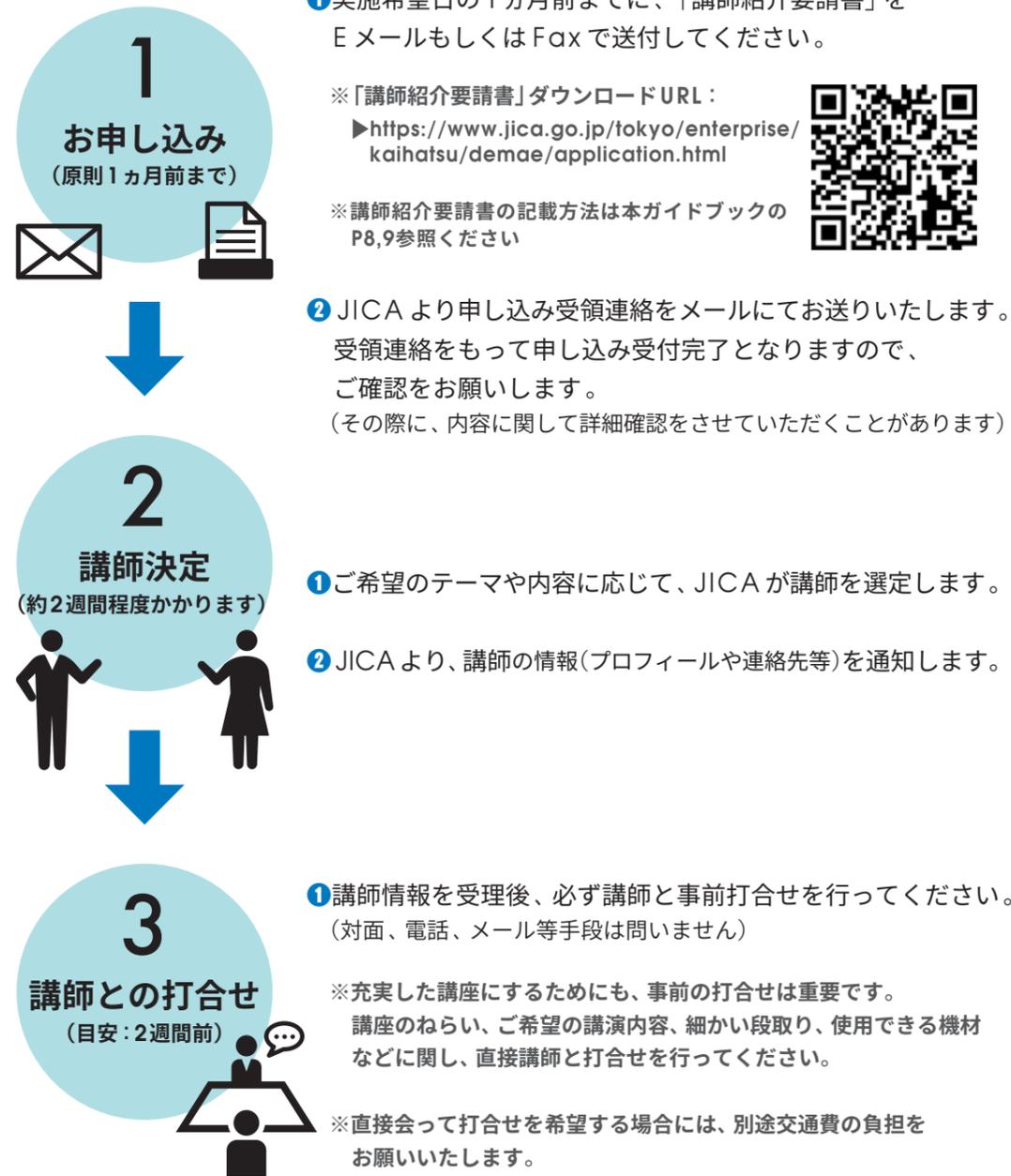
## 費用はどのくらいかかるの？

講師への謝金と交通費を負担していただきます。

謝金について、目安は一人当たり1時間 4,600円です (JICA 規定に基づく)。学校や自治体における講師謝金単価基準がある場合は、その基準に準じる形で構いません。

## 講座実施の流れ

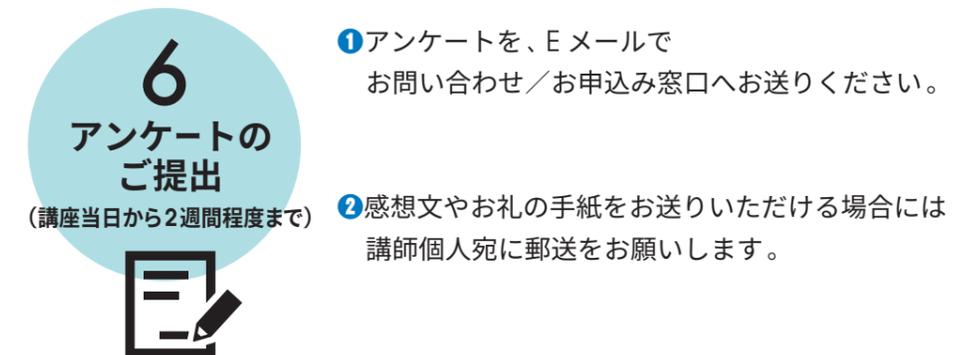
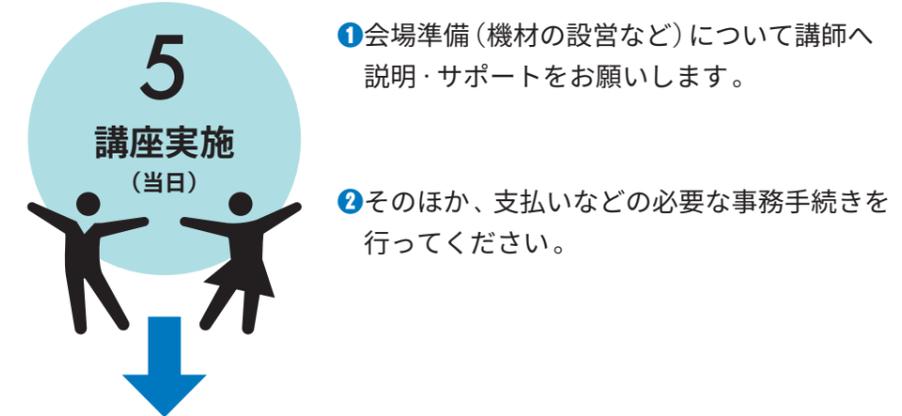
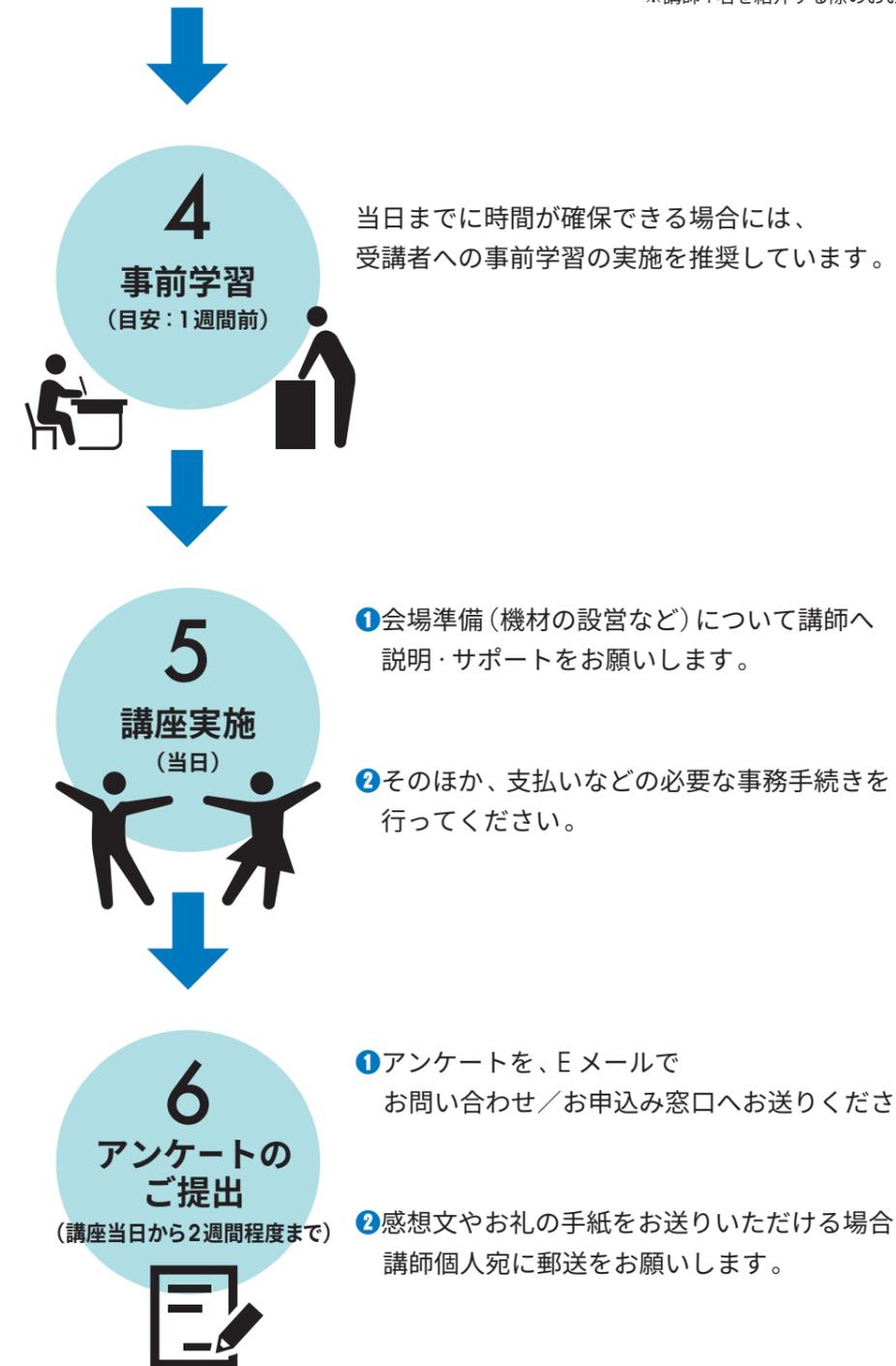
※講師1名を紹介する際のおおよその目安です。



### ⚠ 注意事項

※本事業は、途上国での海外協力隊経験を持つ個人を講師として紹介する事業です。講師派遣事業ではございませんので、JICAからは講座の内容についての指示・指導は行いません。講座実施にあたっては学校の教育活動にとってふさわしい内容となるようご指導ください。

※講座の内容や日程が決まっていない段階でも、ご相談に応じます。



※講座で扱うテーマや国・地域が限定されている場合、および、複数名の講師紹介をご希望の場合には、講師選定に時間がかかります。予めご了承の上、お早めにお問合せください。

※医療分野(特に看護師、保健師、助産師)の場合は、講師確保の観点から、実施日の3カ月前頃のお申込みが望ましいです。

# 講師紹介要請書の書き方のポイント！

※講師紹介要請書は講師手配の際、講師も参考にする資料です。

## 1 講座開催日

いくつか候補日時がある場合には、優先順位をつけてご記入ください（様式には記載欄が一つしかございませんが、必要に応じて記載欄をご変更ください）。

## 2 時間設定・回数

講師一人あたりの担当講座の時間および回数についてご記入ください。授業時間の中に質疑応答を含む際には、記入例のようにお知らせください。

## 3 使用可能な機材

講師の多くは、パワーポイントを使用するため、パソコンとプロジェクター（または、それに替わるモニター）をご準備ください。USBメモリが使用できない場合は、他に使用可能な記録媒体について、講師へお知らせください。接続ケーブルやパワーポイントのバージョンの違いによるトラブルも発生しております。当日のトラブルを避けるためにも、事前打ち合わせにて必ずご確認をお願いいたします。

## 4 講師への支払い

複数の講師の紹介をご希望の場合は、一人にお支払いいただく金額をご記載ください。また、交通費につきまして謝金を含む場合は、「支給なし」にチェックを入れていただき、その旨を余白等にご記入ください。

年 月 日

独立行政法人国際協力機構(JICA) 東京センター  
市民参加協力第一課 課長 行

### JICA 国際協力出前講座 講師紹介要請書

以下のとおり、講師の紹介を要請します。なお、出前講座の実施に関して、児童・生徒等の参加者が負傷する等の損害が発生したときは、JICA 又は講師の故意又は重大な過失による場合を除き JICA 及び講師は責任を負わないものとし、当方(要請元)の責任において解決することに同意します。

学校・団体名		
代表者	【役職名: _____】	
担当者	【役職名: _____】	
住所・連絡先	〒 _____	
TEL:	FAX: _____	
下記①②両方のアドレスに返信いたします。②もお持ちの場合は必ずご記入ください。		
E-mail①	※個人アドレス(フリーメールは不可)を記入	
E-mail②	※組織・学校等の代表アドレスを記入	
講座開催日	年 月 日 ( )	
講座時間	時 分 ~ 時 分 うち実質講演時間: 時 分 ~ 時 分	
時間設定・回数	記入例) 45 分間の授業を 2 回実施 (5 分間の質疑応答含む)	
講師集合時間・場所	時間: _____	場所: _____
対象者・人数	学年・職業等: _____	人数: _____
開催場所	会場名: _____ <input type="checkbox"/> 教室 <input type="checkbox"/> 体育館 <input type="checkbox"/> ホール <input type="checkbox"/> その他 [ _____ ]	
会場住所	※依頼元と異なる場合 交通手段: 最寄駅・バス停名 [ _____ ] から _____ 分 路線: _____	
使用可能な機材	<input type="checkbox"/> パソコン(パワーポイント使用可) [USBの利用 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可] <input type="checkbox"/> マイク <input type="checkbox"/> プロジェクター・スクリーン <input type="checkbox"/> 黒板・ホワイトボード <input type="checkbox"/> その他 [ _____ ] <input type="checkbox"/> 世界地図 ※希望講師数が複数の場合: パソコン・プロジェクターの台数 [ _____ ] 台	
講師への支払い	講師謝金: 4,600 円 / 人 (記入例) 交通費: <input type="checkbox"/> 支給有り 上限 _____ 円 <input checked="" type="checkbox"/> 支給無し ※謝金に含む ※直接事前打ち合わせを希望する場合は、別途交通費負担をお願い致します 源泉徴収分の差し引き <input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし 支払方法 <input checked="" type="checkbox"/> 口座振込み <input type="checkbox"/> 当日手渡し マイナンバー提出の有無 <input type="checkbox"/> 要 <input checked="" type="checkbox"/> 不要 ※取付は依頼団体で行ってください	
本講座実施実績	<input type="checkbox"/> 今回が初めて 過去に実施したことがある場合 ※下記わかる範囲でご記入下さい <input type="checkbox"/> 2 年目 <input type="checkbox"/> 3 年目 <input type="checkbox"/> 4 年目以上 <input type="checkbox"/> 不明	

※環境に配慮しペーパーレスに取り組んでおります。メール添付の形でお申込みください。  
※該当の口に / を入れてください。

JICA 国際協力出前講座依頼書

年 月 日

<教育機関の方> 出前講座実施単元/講義 ※詳しくご記入くださるか、学習指導案、シラバス等を添付ください。

今回の講座の位置づけ	<input type="checkbox"/> 教科 [教科名: _____] <input type="checkbox"/> 総合的な学習の時間 <input type="checkbox"/> 学校行事 [行事名: _____] <input type="checkbox"/> その他 [ _____ ]	<大学>講義名: _____
事前・事後学習の予定	【事前】 記入例) 小学校 6 年社会科「世界の中の日本」の学習 ・日本と関係の深い国々の調べ学習 ・国連、ODA についての学習 【事後】 記入例) 国際社会のあり方について意見文にまとめる。	
講座・講師依頼内容	今回の講座のテーマ/タイトル	
講座の目的	○ よい例) 「JICA 海外協力隊の具体的な活動について知り、その様子、願い、苦労、現地の人々の様子などについて学ぶ」 ○ 現地での活動内容に加えて、講師自身や派遣国の人々の思いについてもふれることに留意して講座内容を組み立てることができます。 △ 悪い例) 「国際理解教育」 △ 目的の示す範囲が広いため、講座のゴールが曖昧になってしまいます。	
講座の希望内容	※複数選択可 <input type="checkbox"/> 海外協力隊の体験談 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 外国の生活・文化/異文化理解 <input type="checkbox"/> 記入例) 人権にかかわる内容 <input type="checkbox"/> 国際協力活動 <input type="checkbox"/> 進路、キャリア 国・地域、専門分野などご希望があればご記入ください。 記入例) アフリカ地域で活動されていた方/教育分野で活動されていた方/保健・医療関係の職種で派遣されていた方 など	
講師についての希望	<input type="checkbox"/> 海外協力隊経験者 <input type="checkbox"/> JICA 職員 <input type="checkbox"/> 指定無し <input type="checkbox"/> その他 [ _____ ] * JICA 研修員を希望される場合は、英語版の申込書をご使用ください。	講師の希望人数 [ _____ ] 人 ※ご要望に応じられない場合もございます。予めご了承ください。
講座の流れ/ポイント、講師の役割等	※特に講師から受講者に向けて伝えてほしいことや依頼者として講座に盛り込んでほしい内容等、ご記入ください 記入例) ・講師が受講者と同じ年代だったころの様子 ・海外協力隊を目指したきっかけ ・帰国後のキャリア ※話し合い等の活動を入れていただきたいです。	
回答期限希望日	年 月 日 まで ※講師決定までは通常 1 か月の時間を頂いております。	

※この依頼書の写しを講師に送付します。また、ご記入いただいた情報は、当機構が発信する開発教育・国際理解教育支援事業のみに使用し、それ以外に開示・流用することはございません。

JICA 国際協力出前講座依頼書

## 5 事前・事後学習の予定

受講者がこれまでにどのような学習を進めてきたのか等の情報は、講師が講座の内容を組み立てる際の参考情報となります。可能な限り具体的に記入してください。

## 6 講座の目的

講座の目的やねらいを明確にすることが大切です。講座終了後、児童・生徒にどのようなようになってほしいのか等、講座のゴールをお知らせください。講師はゴールに向けて、講座内容や流れなどを組み立てて、実施いたします。

## 7 講座の希望内容

4つの選択肢以外に内容についてご希望がある場合にはその他の欄にご記入ください。

## 8 講師についての希望

海外協力隊経験者や JICA 職員・専門家の中から講座にご協力いただける方をお探します。ご希望がある場合は、国や地域、専門分野など具体的にご記入いただければ、可能な限りご希望に合わせて講師を手配いたします。(ご希望に必ずしも添えるわけではございません。ご希望の講師の手配が難しい場合は、ご相談させていただく場合もございます)

## 9 講座の流れ

当日の講座の流れが決定してありましたら、箇条書きでご記入ください。講師が講座内容を組み立てる際の大切な情報となります。

研修員講師用

JICA 研修員の紹介を希望される場合は、英文の講師紹介要請書をご送付ください。  
以下の日本語訳を参考に英語でご記入ください。

※こちらは講師手配の際、講師（JICA 研修員）も参考にする資料です。

Date: (申込日)

To: JICA Tokyo Center  
Partnership Program Division 1

### Lecture for International Understanding Application Form

Organization	団体名(学校名)	
Representative	代表者名	
Contact Person	担当者名	
Address/Contact 住所/連絡先	〒 住所 (郵便番号からご記入ください)	
	TEL: 電話番号	FAX: ファックス番号
	E-mail: メールアドレス ※講師決定後の回答書類はメールにて返信いたします。	
Request day 講座開催日	Day/Month/Year (日/月/年の順にご記入ください)	
Request time 講座時間	Class time : (Start) : ~ (Finish) :	
	講座時間: (開始) : ~ (終了) :	
Site 場所	Time: 集合時間:	Place: 集合場所:
	実質講演時間: (開始) : ~ (終了) :	
Participator 対象者	Grade: 学年 / 職業など:	Number of Student: 人数:
Site detail 開催場所の詳細	Name of place: 会場名:	
	<input type="checkbox"/> Class room (教室) <input type="checkbox"/> Gymnasium (体育館) <input type="checkbox"/> Hall (ホール) <input type="checkbox"/> Other (その他) [ ] ※Please make a check in the appropriate box. □にチェックを入れてください	
	Transportation: Nearest station/bus stop ( ) 交通手段: 最寄り駅 / バス停名 ( ) About [ min ] from [ station / bus stop ] おおよそ [ 分 ] [ 駅 / バス停 ] より	
	Route : ※ Please attach the map of site. 路線: ※会場までの地図を別添ください	
Useable materials 使用可能な機材	<input type="checkbox"/> PC (Installed Power point) *USB <input type="checkbox"/> connectable or <input type="checkbox"/> not connectable <input type="checkbox"/> PC (パワーポイント使用可) ※USB <input type="checkbox"/> 可能 <input type="checkbox"/> 不可	
	<input type="checkbox"/> Projector/Screen <input type="checkbox"/> Microphone <input type="checkbox"/> プロジェクター/スクリーン <input type="checkbox"/> マイク	
	<input type="checkbox"/> Video <input type="checkbox"/> CD Player <input type="checkbox"/> Board (White/ black) <input type="checkbox"/> ビデオ <input type="checkbox"/> CD プレーヤー <input type="checkbox"/> ボード(ホワイトボード / 黒板)	
	<input type="checkbox"/> Terrestrial globe <input type="checkbox"/> World map <input type="checkbox"/> Other [ ] <input type="checkbox"/> 地球儀 <input type="checkbox"/> 世界地図 <input type="checkbox"/> その他 [ ]	
	※Please make a check in the appropriate box □にチェックを入れてください	

JICA 国際協力出前講座依頼書

Honorarium / Transportation fee  講師へのお支払い (謝金/交通費)	Honorarium: ¥ _____ Transportation fee: ¥ _____ 謝金: ¥ _____ 交通費: ¥ _____	
	Method of payment <input type="checkbox"/> Bank transfer <input type="checkbox"/> Cash 支払い方法 <input type="checkbox"/> 口座振り込み <input type="checkbox"/> 当日手渡し <input type="checkbox"/> Please bring your "Social Security and Tax Number" <input type="checkbox"/> 保険証書と税金ナンバーカードをお持ちください <input type="checkbox"/> Please bring your Bank account No. <input type="checkbox"/> 銀行口座番号をお持ちください	
Have you made use of JICA international program? 以前にJICAの出前 講座を利用したことが ありますか?	<input type="checkbox"/> First time <input type="checkbox"/> 今回が初めて	<input type="checkbox"/> We used before <input type="checkbox"/> 以前に利用したことがある When? いつですか? ※Please make a check in the appropriate box ※□にチェックを入れてください
	Subject / Unit 教科/単元	
Prior / Follow-up learning 事前学習/事後学習 の予定	[Prior] [事前学習] [Follow-up] [事後学習]	
Content / Request details 講座/講師依頼内容の詳細		
Theme / Title	今回の講座のテーマ / タイトル	
Purpose of Lecture	講座の目的	
Content	講座の内容 / 流れ 等	
Number of Lecturer	講師の希望人数	
Do you need an interpreter? 通訳は必要ですか?	<input type="checkbox"/> YES ※Number of interpreter ( ) <input type="checkbox"/> NO <input type="checkbox"/> 必要 ※通訳希望人数( ) <input type="checkbox"/> 不要 ※If YES, It is also necessary to pay honorarium for interpreters. ※通訳が必要な場合は、通訳の分の謝金等もご用意していただくこととなります	
Remarks	備考 (講師にお伝えすることがございましたら、ご記入ください)	

■ We need those papers;  
 (1) Application form (This paper)  
 (2) Map of site  
 (3) Syllabus (if you have)

■ 以下の資料がございましたら、合わせてお送りください。  
 (1) 講師紹介要請書 (本紙)  
 (2) 会場までの地図  
 (3) シラバス等の講座概要に関する資料

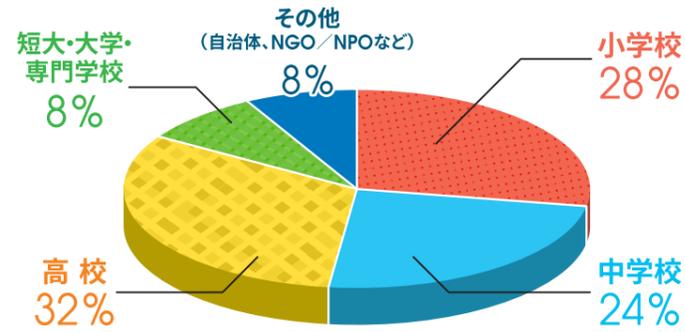
JICA 国際協力出前講座依頼書

基本的に通訳の手配は行っておりません。通訳が必要な場合には、各自で手配が必要となります。どうしても手配が難しい場合のみご記載ください。

# 国際協力出前講座 依頼内容の傾向

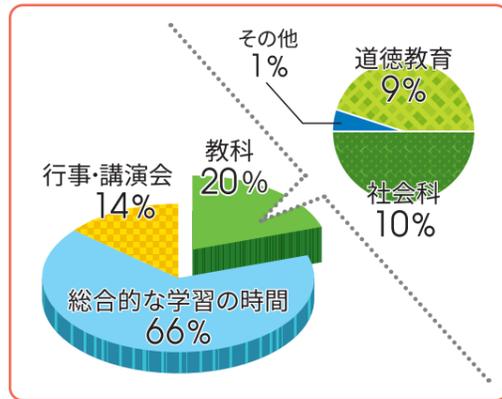
2019年度実施の「出前講座講師紹介要請」225件をもとに、依頼内容をまとめました。  
(2020年2月1日現在)

## 校種

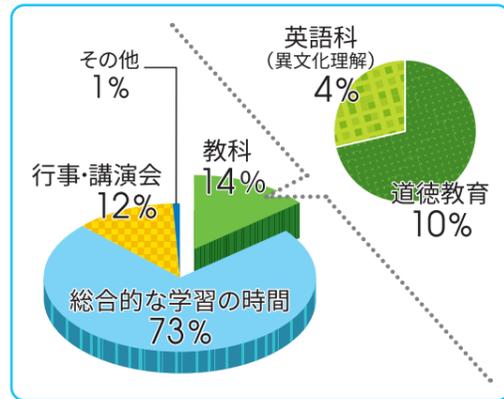


## 学校で出前講座を活用している教科

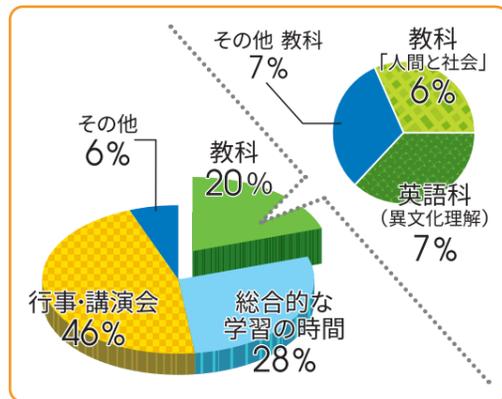
### ■小学校 (63件)



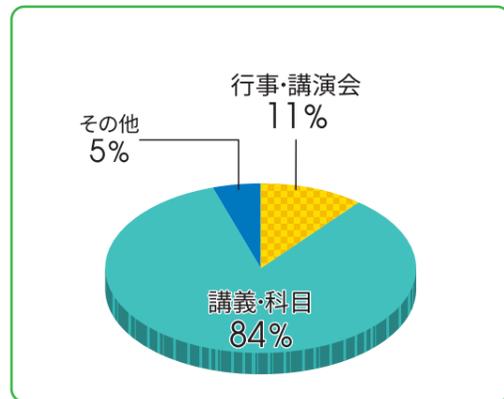
### ■中学校 (55件)



### ■高校 (70件)



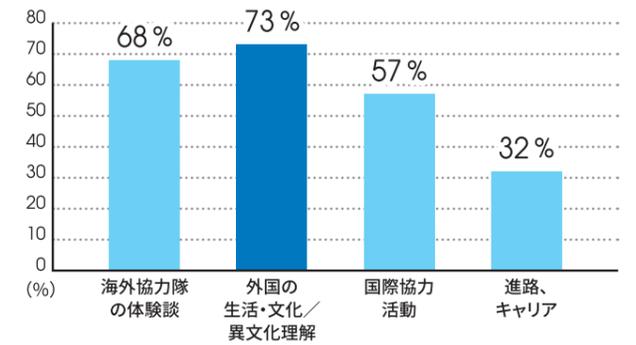
### ■大学・短大・専門学校 (19件)



## 希望内容の傾向

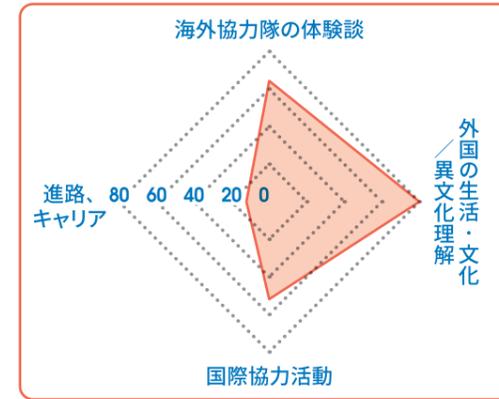
4つの項目より内容を選べるようになっています(複数回答可)。

図のように、4項目の中では「外国の生活・文化/異文化理解」を希望する講座が多いですが、多くの講座では複数選択している傾向にあります。



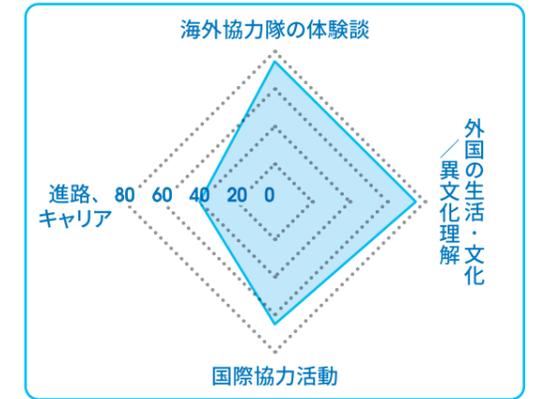
## 校種別に見た希望内容の傾向

### ■小学校 (63件)



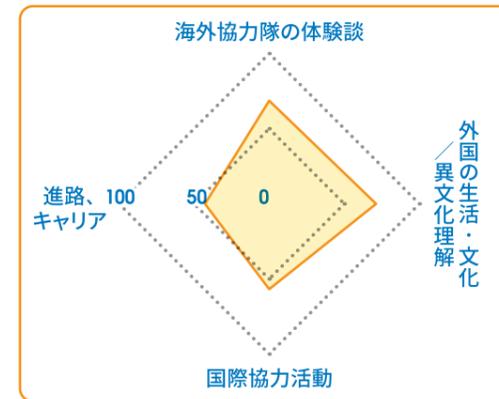
小学生を対象にした出前講座では特に派遣国の子どもをテーマにした依頼が多いです。  
また、調べ学習と関連して、国を指定した依頼もありました。

### ■中学校 (55件)



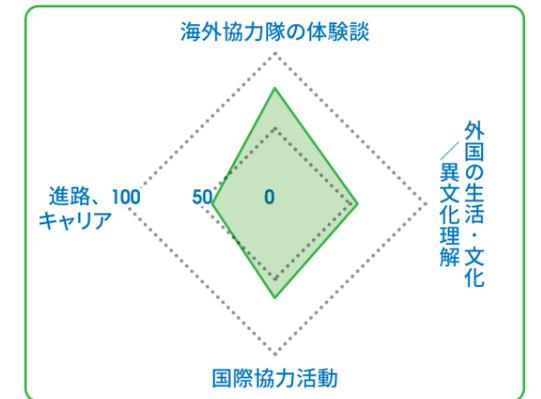
特にクラス毎の実施講座では、活動や話し合いを入れた対話的な講座を希望されることも多いです。

### ■高校 (70件)



高校生を対象にした出前講座は、講師がJICA海外協力隊を目指したきっかけや帰国後のキャリアなど、キャリア教育の視点を入れて講師自身の話を希望されることも多くあります。

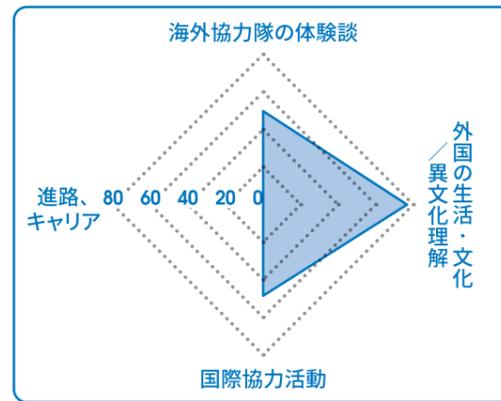
### ■大学・短大・専門学校 (19件)



学生向けの出前講座では、学部や学科の専門性に合わせて職種の指定、海外研修に合わせて具体的な国を指定した依頼がありました。

## ■その他 (18件)

市民向け講座では、文化紹介、研修やセミナーでは専門分野での国際貢献活動を希望することが多いです。教員向けの研修もありました。



## その他よく見られる要望

### 【国や地域の指定】

国や地域を指定する理由としては、調べ学習のため、教科学習で取り上げられている国、過去数回実施している団体がこれまでと違う国を希望する場合、研修や修学旅行に向けた講座の場合などがあります。開発途上国であっても JICA 海外協力隊の派遣人数が少ない国もありますが、JICA 職員、専門家のご紹介なども含めて可能な限りご希望にお応えしております。

### 【職種の指定】

キャリア教育の一環として、職種を指定しての依頼もよくあります。保健・医療分野の指定が最も多くその他、教育やスポーツ分野での指定がありました。海外協力隊員の派遣時の職種に加え、帰国後、教育分野で働いている人、ソーシャルビジネスなどで現在も派遣国と関わりを持っている人、といった帰国後のキャリアへのご要望も、可能な限りお応えしております。

### 【参加型の講座】

話し合い活動や参加型の活動、実演などを取り入れてほしい、という要望も多くあります。講座の中で、フォトランゲージ(写真について受講者へ問いかける)を行う、グループ内で意見交換の場を作るなどの対話的な講座を、ご要望に応じて実施いたします。

### 【人権教育】

貧困や教育格差、子どもの人権、当該国が抱えている問題など、人権教育についての希望があります。講師自身の活動や経験に関連させてお話しいたします。

### 【SDGs】

希望が増えてきているテーマです。探究的な学習でSDGsを切り口に取り組んでいる学校も多く、その学習の一環でSDGsと国際協力に関する講座の依頼をいただいております。当事業としては、SDGs そのものの説明をするよりは、海外協力隊の活動や JICA が実施している国際協力活動がSDGs とどのように関連しているのか、といった内容のお話しさせていただいております。

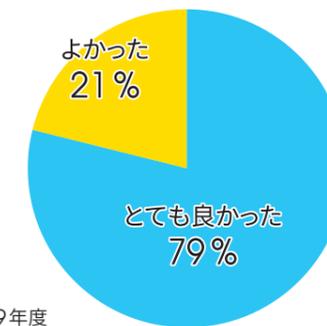


## 国際協力出前講座 アンケート集計

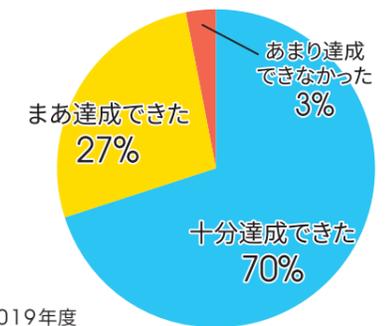
2019年度実施の出前講座実施後アンケート 111件をもとに、満足度をまとめました。

(2020年2月1日現在)

Q: JICA 国際協力出前講座を実施していかがでしたか。



Q: 期待していた内容は十分に達成できましたか。



Q: 特に、受講者の学びや気づきなどがあれば、ご記入ください。

- 調べ学習では知りえないことや考えがおよばない内容を学ぶことができました。
- 子ども達がとても真剣に話を聞いていました。紹介頂いた国以外の文化にも興味を持つようになりました。
- その国での経験を映像とともにお話しされ、生徒からの質問に対しても分かりやすくお答え頂けました。
- 6名の講師が、それぞれの視点で国際協力のお話しをしてくださり、生徒たちは大変興味深く聞いていました。
- 講演後に実施したアンケートに生徒自身の言葉で良い反応が確認できました。
- 実体験をもとにした講師の話は大変説得力がありました。
- 多くの生徒がボランティア活動や国際貢献活動に対して関心をもつきっかけとなりました。
- 同じ年齢の子どもがどんな生活をしているのか、どんな食べ物を食べているのかなど様々な疑問がわいたようでした。
- 改めて自分たちの住む日本についても考えるきっかけになったようでした。
- 世界を知ること、感じることを大切であると教えていただき、生徒の視野が広がったと思います。
- 海外協力隊への興味関心が高まり、将来参加してみたいという気持ちを持った生徒がいました。
- 日本の当たり前は海外では当たり前ではなく、今ある環境に感謝したい、という意見がありました。
- 日本にいると悪いイメージばかりが情報として入ってくるため、講師の話を聞いて自分自身のステレオタイプに気付いたようでした。
- 講師の言葉から、目の前の目標に一生懸命取り組む大切さを改めて学んだようでした。

# 荒川区立第二峡田小学校

## ～ 小学校編 ～

講座の希望内容 ※複数選択可

- 海外協力隊の体験談
- 外国の生活・文化／異文化理解
- 国際協力活動
- 進路、キャリア



1. どの学年、教科で講座を実施していますか？

6年生の総合です。

2. どんな内容(テーマ)で講座を依頼していますか？

自分達と同じ年代の子どもたちが、世界の他の国でどのような生活をしているのかを知って、考えてほしいという思いから、「世界の子どもたち」としています。

3. 講座のねらい(児童生徒に得てもらいたいこと)は何ですか？

世界の子どもたちの生活を知り、日本での生活が当たり前ではないことに気づき、世界の課題に対して今できることは何かを考えるきっかけとすることです。

4. 出前講座によってその目的はどの程度達成できましたか。

その後の児童たちの様子を見て、種を撒くことはできたと思っています。すぐに芽は出ないかもしれませんが、広い視野を持つてほしいと思っています。

5. 目的ではなかった部分での児童生徒の変容は見られましたか。それはどのようなものでしたか。

講師が紹介して下さった国の話題を休み時間に話していたり、「世界ともだちプロジェクト」の該当国についても興味をもって調べるなど、異文化への興味が広がったと感じています。

6. 出前講座を依頼するようになったきっかけは何ですか？

毎年取り組んでおります。教科書や図書資料で学ぶのではなく、実際に活動してきた人から「生」の声を聞くことができるという点で教育効果があると感じています。

7. 講座実施の時期はいつ頃ですか？

秋です。可能な限り、学校の公開日に合わせて実施しています。

8. 実施を決定するのはいつ頃ですか？

年間計画に組み込まれていて、詳しくは担当学年で予定を相談して日程を決めています。

9. 事前・事後学習はどのようなことをしていますか。

**事前学習** 本年度は調べ学習をしたり、図書の時間を利用して本の読み聞かせをしたりしました。

**事後学習** 本年度は学級ごとに新聞やポスターを作成し、学習したことをまとめました。

10. 講師との事前打ち合わせについて教えてください。

方法 (X-1) / (電話) / 直接 ※直接会うことができると、お顔を知り、安心できる。

回数 3、4 回程度

記憶媒体の種類や当日配布資料の有無

**確認事項** 45分の中に活動(クイズ、体験など)が入るような講座の流れ  
キャリア教育の視点(これから大切にすると良いことを講師の考えで)

**必ず講師に伝えて  
いること** (先生によって異なると思いますが)  
本年度は、「その国の子どもたちについて話してほしいこと」を伝えました。

.....担当の先生より.....

近年はICT等の発達もあり、様々な情報を児童自身が得ることができます。しかし、本校では「本物から学ぶ」といったことが教育方針の一つとしてあるため、この講座はとても有意義なものであると思います。話の内容はもちろんですが、やはりこういった講座においては講師の人としての魅力(この人の話は聞いてみたい)が重要だと感じています。その点において、今年度のお二人の講座は児童の興味関心を引く工夫がされており、子どもたちは意欲的に話を聞いていました。開発途上国は変化が激しいと思います。最新の情報の提供をお願いしたいです。

～ 中学校編 ～

講座の希望内容 ※複数選択可

- 海外協力隊の体験談
- 外国の生活・文化／異文化理解
- 国際協力活動
- 進路、キャリア



1. どの学年、教科で講座を実施していますか？

3年生の総合です。

2. どんな内容(テーマ)で講座を依頼していますか？

2コマの連続講座として、1コマ目はJICAの取り組みや海外協力隊について学年全体で聞き、2コマ目に講師それぞれの体験を各学級で聞くという内容にしています。特に2コマ目では、一般論ではなく、個人の活動や体験からお話しいただくよう依頼しています。

3. 講座のねらい(児童生徒に得てもらいたいこと)は何ですか？

国際協力や世界の国々をより身近に感じることです。実際に活動をしている方のことを知り、今すぐ何かできずとも、いつか関わることもできると知ってほしいと思っています。

4. 出前講座によってその目的はどの程度達成できましたか？

生徒の感想を通して、身近に感じてもらったことを実感しました。また、看護師を目指す生徒が、日本以外でも医療に従事できることを知った、というように、将来自分ができることに多くの可能性があることに気づききっかけとなりました。

5. 目的ではなかった部分での児童生徒の変容は見られましたか。それはどのようなものでしたか？

講座で講師の考えや思いを聞き、他クラスへの発表の際にも自分の感想を述べるようにしたことで、理解を深めることができたと感じています。

6. 出前講座を依頼するようになったきっかけは何ですか？

5年前から依頼をしています。以前、JICAの教師海外研修に参加し、実際に開発途上国を訪れて海外協力隊員が活動している様子を見学しました。この経験から、国際協力活動を、教科書に載っていることではなく、生徒の身近なものにできればと思い、講座を依頼するようになりました。

7. 講座実施の時期はいつ頃ですか？

秋頃です。大きな行事の無い時期に実施しています。

8. 実施を決定するのはいつ頃ですか？

4月初め、学年の年間計画を立てる際に決めています。

9. 事前・事後学習はどのようなことをしていますか？

- 事前学習** 今年度は、SDGsについて調べ学習、発表を行いました。
- 事後学習** 昨年度から、自分のクラス以外の講師の話も知ることができるよう取り組みをしています。代表者が他のクラスへ行き、講師からお借りした写真数枚や説明、クイズを通して、教わったこと、聞いて考えたことなどを発表しています。

10. 講師との事前打ち合わせについて教えてください。

- 方法** (X-ル) / (電話) / 直接
- 回数** 3, 4 回程度
- 確認事項**
- ・講座の内容(参加型にしていきたいなど)
  - ・機材について(記憶媒体の種類など)
- 必ず講師に伝えていること**
- ・講師自身の感じたこと、考えたことなどを話していただきたいということ

.....担当の先生より.....

国際理解の授業で大切なことは何か？それは「①身近であること、②具体的にすること」であると考えました。その両者を実践に生かすために、出前講座は大変有効でした。その学習効果をさらに高めるためにも、事後学習に出前講座を活用するように工夫しました。特に今年度は一人の講師の方から、「私の話を聴いて、生徒が自分なりの解釈をして、未来のビジョンも含めて他クラスの生徒に伝えてほしい」という意見ももらい、「自分の言葉」で生徒が学びをアウトプットすることも出来ました。こうした提案もいただけることで、私自身もレベルアップし、それがさらに生徒の成長にもつながっていくのだと思います。

## ～ 高等学校編 ～

講座の希望内容 ※複数選択可

- 海外協力隊の体験談
- 外国の生活・文化／異文化理解
- 国際協力活動
- 進路、キャリア



### 1. どの学年、教科で講座を実施していますか？

3学年の「商業」の課題研究、1学年全体の「人間と社会」第16章「グローバル化が進展する社会に生きる」、希望者対象のキャリアセミナーなどです。

### 2. どんな内容(テーマ)で講座を依頼していますか？

3学年では海外協力隊の体験談に加え、キャリア教育の視点を入れていただくよう依頼します。また、1学年全体では、修学旅行に関連させ、ベトナムをテーマとして依頼しました。

### 3. 講座のねらい(児童生徒に得てほしいこと)は何ですか？

講座によって異なりますが、調べても知ることができなかったその国の生活や文化について学ぶこと、グローバルな視野を持つきっかけとすること、です。

### 4. 出前講座によってその目的はどの程度達成できましたか。

事前打ち合わせの中で、講座のねらいや方向性を確認したうえで講師が内容を考えてくださったので、その国の実際の話が聞けた、異文化の人とも壁を感じずにコミュニケーションをとりたい、といった生徒の感想がありました。

### 5. 目的ではなかった部分での児童生徒の変容は見られましたか。それはどのようなものでしたか。

特に3年生では、キャリアの選択肢が広がったようでした。「自分も解決したいと思える課題を見つけない」と考え、講師の生き方から学んだ生徒もいました。

### 6. 出前講座を依頼するようになったきっかけは何ですか？

今年度は学年や教科に合わせ、4回依頼をしました。例えば、SDGsについて学ぶためJICA地球ひろばを訪れた際に出前講座を知り依頼した場合や、進路に対する視野を広げることができるような講座ということで依頼した場合などです。

### 7. 講座実施の時期はいつ頃ですか？

大体秋から冬の時期に行うことが多いです。

### 8. 実施を決定するのはいつ頃ですか？

年間計画を立てる際に、予算を組み、具体的には実施の2~3か月前ごろに決定し、依頼します。

### 9. 事前・事後学習はどのようなことをしていますか。

**事前学習** 3学年で依頼した講座では、1年を通して、SDGsやパラグアイについての調べ学習、グループでの研究、ポスターセッションを行い、そのまとめとして依頼しました。

**事後学習** 1学年で依頼した講座では、本講座を導入として、次年度秋の修学旅行へ向けて学習していく予定です。

### 10. 講師との事前打ち合わせについて教えてください。

方法 (メール) / (電話) / (直接)

回数 5回程度

**確認事項** ・会場下見(様子や規模) ・参加者(人数、男女比、普段学んでいることなど)  
・当日配布の資料

**必ず講師に伝えて  
いること** ・講座の目的 ・学校の特色  
・内容について(講師自身の話をしてほしい、実物があるといい)

### ..... ご担当者の感想・ご意見 .....

国際理解教育と開発教育として青年海外協力隊の方の話を聞かせるだけでなく、これからのビジネス教育をしていくうえで、隊員の方の資質を知ることによってグローバル人材育成として活用できると思われれます。

「グローバルに活躍する」という言葉を使うとき、漠然としたイメージしかもてないことが多いが、このJICAの出前講座を通して、「グローバルに活躍する」ことをより具体的にイメージできるきっかけになっています。生徒にとっても教員にとっても視野を広げることができる有意義なものであり、今後も活用していきたいです。

# 東京都立小平特別支援学校 武蔵分教室 病院訪問部

## ～特別支援学校編～

講座の希望内容 ※複数選択可

- 海外協力隊の体験談
- 外国の生活・文化／異文化理解
- 国際協力活動
- 進路、キャリア



### 1. どの学年、教科で講座を実施していますか？

本校は、病院に入院している児童・生徒を対象に授業を行っており、今年度は、小学生から高校生までの在籍児童・生徒が参加しました。そのため、総合的な学習の時間で実施しています。

### 2. どんな内容(テーマ)で講座を依頼していますか？

昨年度実施した際に、児童・生徒たちが、文字への興味を示したことに驚きました。そこで今年度もカンボジアの独自の文字文化をテーマにしました。また、神経系疾患を抱えた児童生徒は、体を自由に動かしたり声を出したりすることに困難があり、字を書くことは難しいため、アフリカの音楽をテーマに依頼しました。

### 3. 講座のねらい(児童生徒に得てもらいたいこと)は何ですか？

病院へ入院している期間が長い児童・生徒もあり、人と出会う機会が限られています。特に外国の方の話を聞き、その国の文化を知ることで、新しい文化や人との出会いを楽しんでほしいと思っています。

### 4. 出前講座によってその目的はどの程度達成できましたか。

カンボジアのクメール文字を夢中になって書いている姿や、アフリカの音楽やダンスを楽しんでいる姿が見られ、十分に達成できたと思います。

### 5. 目的ではなかった部分での児童生徒の変容は見られましたか。それはどのようなものでしたか。

今回のテーマであった文化についてだけでなく、講師の専門の水道インフラ整備に関する話などにも興味をもって聞いていました。

### 6. 出前講座を依頼するようになったきっかけは何ですか？

本校職員に海外協力隊経験者がおり、JICAを紹介されたことがきっかけで、国際理解教育を行うようになりました。昨年度は精神疾患のある小・中・高校生を対象に実施し、今年度が2年目です。

### 7. 講座実施の時期はいつ頃ですか？

秋から冬頃にかけてです。

### 8. 実施を決定するのはいつ頃ですか？

4月に年間計画の中で予定し、状況を見て具体的な日程を決めます。

### 9. 事前・事後学習はどのようなことをしていますか。

**事前学習** 突然状況が変化することが苦手な児童生徒も多いので、外国の方が来てお話ししてくださることを予め伝えました。また、カンボジアの講座では、国の概要のみ事前に学習しました。

**事後学習** カンボジアの講座では、文字文化のことや、講師が話してくださった水にまつわるインフラ整備のことを事後学習として学びました。アフリカ音楽の講座では、講座の後も録画した映像で音楽を楽しんでいました。

### 10. 講師との事前打ち合わせについて教えてください。

方法 (メール) / (電話) / 直接

回数 何度も

**確認事項** ・機材について(インターネット使用など) ・内容(特に重点を置いて話してほしいこと)  
・当日のパワーポイント資料 ・タイムスケジュール

**必ず講師に伝えて  
いること** ・講座で話していただきたい内容  
・参加者へ何を伝えてほしいのか、という学校側の思い

.....担当の先生より.....

今年度は2つの病院でそれぞれ1回、実施をしました。子どもたちは、病気による入院で病院生活が強いられ、人と出会う機会が限られた生活をしていましたが、アフリカやカンボジアからお招きした素敵な方との交流が実現できました。それぞれの国の衣装や言語等、日本と異なる文化に初めて接することができた子どもたちは全員、目を輝かせていました。今回の交流授業に参加した子どもたちは、全員退院して行きましたが、この素晴らしい経験が彼らの今後の豊かな人生の種となって芽を出してくれることと思います。

# 講座 & 講師紹介 【JICA 海外協力隊編】

私の  
定番講座  
紹介  
します！

開発途上国の文化や生活の様子を知り、異文化を理解しよう！

《ご希望いただいたテーマ》異文化理解 《スライド枚数》60~80枚（講座全体で使用するパワーポイント）

## 1 異文化クイズ！

自己紹介をした後に、写真を見せながら、派遣国のロンボク島の名物料理に関するクイズを出します。「この赤いソースは何でできているか」を皆さんに考えてもらいます。



## 2 異文化理解 ~食文化編~

クイズの答え合わせをしながら、現地の市場の様子を伝えます。「この赤い山が、写真1枚目のソースの材料です。ロンボク島の住民の7割の方は、農業に従事しているので、野菜が新鮮で安くて、とても生活がしやすい島でした。」と現地の様子を生々の体験をもとに伝えています。



## 3 異文化理解 ~生活編~

次に現地の生活の様子を伝えるため、川で顔を洗う女の子と、洗濯をしてお母さんが写った写真を紹介します。「家に水道がない家庭は、川で生活の一部を行います。日本のように、蛇口を捻れば綺麗な水が出てくるのが当たり前じゃないんだよ」ということを知ってもらいたいです。



## 4 活動紹介 ~現地の子どもたち~

活動中の学校訪問時に出会った、元気いっぱいの小学生のビデオを見せて、現地の様子を感じ取ってもらっています。実際に生徒・児童の皆さんから、資源が十分でない地域に住むインドネシアの子どもたちも、日本の子どもたちのように、楽しく生き生きと生きているんだという感想をもらいます。



## 5 異文化に対する私の想い

活動中の家庭訪問時に見た貧しいお家の冷蔵庫の中身をご紹介します。中には、手作りのゼリー、家の外になっているフルーツ2種類しかありません。このお家では、市場で買ったお野菜やお豆腐などの食材がなく、何を食べて生活しているんだろうと悲しく感じた当時の想いについてお話しています。



## 6 帰国後の私

私は現在、大学院で、途上国の栄養について学び、研究しています。現地に戻って、地域の人々と一緒に栄養士として働くことが私の次の目標であることを最後に伝えています。



出前講座の  
マストアイテムを  
教えてください。

インドネシアの伝統衣装のパティック

日本には見慣れない柄の生地で作られた服で、皆さんに興味を持ってもらえるからです。



学校保健の授業を行った小学校のカウンターパート達  
地域に住む元気な子どもたち  
保健ボランティアさんと調理実習を用いた栄養教室

### ● ご自身のことについて教えてください ●

**JICA海外協力隊になろうと思ったきっかけは何ですか。**  
世界の飢餓・食料問題の現状を知った時、栄養士として、栄養不良で苦しむ子どもたちを助けたいと思うようになり、それを実現するために、JICA 海外協力隊になりました。

**派遣国ではどのような活動をしていましたか。**  
インドネシアのロンボク島で、栄養士として、地域住民の栄養改善活動に取り組みました。具体的には、保健センターにて、5歳未満児や妊婦さんの栄養管理を実施し、調理実習などを用いた栄養教室を開催しました。また、小学校で健康教育の授業をしました。

### ● 出前講座について教えてください ●

**出前講師のやりがいは何ですか。**  
子どもたちが目を輝かせて話を一生懸命聞いてくれるところです。「自分たちが今できることは何がありますか？」と質問してくれ、話を聞いた後に何か行動に移したいという気持ちもとても嬉しいです。

**講座の際にいつも心掛けていることは何ですか。**  
自分の活動の成果だけを話すのではなく、試行錯誤した過程や出来なかったこと、大変だったこととお話して、聞いてくれる人たちが現地での生活をリアルにイメージしてもらえるように心がけています。

**ご自身の講座の定番ネタはどのようなものですか。**  
川で顔を洗ったり、洗濯をしている人の写真を見てもらい、綺麗な水が使えることが当たり前じゃないんだよ、と知ってもらうことです。その他、現地の映像を見てもらい、生活スタイルの違いを感じ取ってもらうことです。

**講座の中で、困ったことはありましたか。それをどのように乗り越えましたか。**  
映像を流す際に、プロジェクターから音が出なくて、現場の臨場感が伝わらなくて困りました。それからは、事前にスピーカーも使いたい旨を伝えるようにしています。

日本の若者へ  
メッセージを  
お願いします。

JICA 海外協力隊として、日本とは言葉や宗教、価値観が全く異なる世界で2年間生活するというのは、本当に貴重な経験でした。私が体験談をお話することで、途上国での生活の一部を知ってもらい、そこから興味を広げていってもらえたら嬉しいです。

※ここでは講師の定番の講座の流れを掲載しています。実際は、各ご依頼のねらいやテーマなどに合わせて内容を構成して実施いたします。

# 講座 & 講師紹介 【JICA 海外協力隊編】

私の定番講座 国際協力の仕事や講師自身の経験を知り、自分の将来やキャリアについて考えよう!  
 紹介します! 《ご希望いただいたテーマ》キャリア教育 《スライド枚数》60枚(講座全体で使用するパワーポイント)

お名前

石島裕太



ケガをケアしながら、マッサージ技術について説明



学校見学者に対し、協力隊活動について説明



理数科教師時代、卒業式にて卒業生との記念写真

派遣国

ケニア

職種

鍼灸理数科教師  
 マッサージ師

2005年7月  
 2007年12月

派遣時期

出前講師の開始時期

2007年9月頃

## ● ご自身のことについて教えてください ●

JICA海外協力隊になろうと思ったきっかけは何ですか。

異国での未知な体験への好奇心とどこで何かできることがあるのか確かめたい思いがきっかけとなり応募しました。現地では学びが多く、その恩返しをしようと2度目の応募に至りました。

派遣国ではどのような活動をしていましたか。

1度目は初等教員養成学校でのパソコン科目の授業、学校職員へのパソコンのメンテナンス法指導の企画、現地の学生と日本の大学生との文通の企画・実施をしました。2度目は視覚障がいを持った方へのマッサージ技術を通じた自立支援活動と日本式マッサージの普及活動を行いました。

## ● 出前講座について教えてください ●

出前講師のやりがいは何ですか。

受講して下さる方々のリアクションが一番のやりがいです。受講者とのコミュニケーションがうまくいくと、びっくりするようなリアクションがあり、そのリアクションから私自身が多くの刺激を受けることがあります。

講座の際にいつも心掛けていることは何ですか。

可能な限り多くの受講者に興味を持ってもらえる講座にすることを心がけています。どんなに伝えたいことであっても聞いている人が興味を持たなければ何も響かないと考えているからです。受講者の年齢や雰囲気に合わせたコミュニケーションが大事だと思います。

ご自身の講座の定番ネタはどのようなものですか。

ケニアでサッカーをしている子どもたちの写真を出し、日本と比べながら、私のケニアでの学びを話します。この写真には途上国の様子、ケニア人の逞しさや人生の楽しみ方等多くのネタが詰まっているからです。

講座の中で、困ったことはありましたか。それをどのように乗り越えましたか。

受講生(高校生)の何人かが私の話に関心を持ってもらえなかった時には困りました。私の話に関心がないとのことで、ケニアで起きている問題を提起し、高校生同士の視点で話し合ってもらう形に変えることで対応しました。

日本の若者へメッセージをお願いします。

皆さん、好きなことって何ですか? JICA 海外協力隊には数多くの職種があり、自分の好きなことに関する職種もあるかもしれません。好きなことはぜひ大切に育ててほしいと思います。将来好きなことを武器に活躍するチャンスが訪れるかもしれないので。

### 1 海外協力隊を目指したきっかけ

まずは受講者へ問いかけをします。将来なりたい職業がある人、なりたい職業はわからないけど興味のある職業はある人、趣味や好きなことがある人、何もない人、とそれぞれどれに自分が当てはまるかを挙げてもらい、私の経験やキャリアを話すための導入とします。

将来なりたい職業  
 興味のある職業  
 趣味や好きなこと  
 何もない

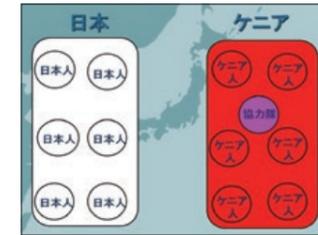
### 2 派遣国紹介 ~ケニアってどんな国~

ケニアはどんなところ? を、多くの写真を見せながら体験談と共に伝えます。例えば子どもの様子の写真を見せます。「裸足で、手作りボールで元気にサッカー! しかもスカート履いてる女の子! ボールがない靴がないとないものねだりせず今を楽しめるケニア人って嬉しい!」



### 3 活動紹介 ~海外協力隊で大切なことは~

受講者がケニアに対しイメージを持てた段階で、活動についてお話しています。協力隊で大切なことは、それぞれの地域にはそれぞれの文化があり、日本のやり方を押し付けるのではなくお互いの文化を尊重しながら活動することであることを伝え、ケニアと日本の文化の違いを色の違いに例えて説明します。



### 4 自分の得意なことを活かして

日本でマッサージの仕事をしてきた私は、ケニアに行ってもその技術を視覚に障がいを持っている人たちに伝え、彼ら彼女らの自立支援活動をしてきました。自分の得意なことを活かして現地で伝えてきた。という私の経験を伝えます。



### 5 海外協力隊で活躍する仲間たち

同じ協力隊員でも様々な得意技を使って活動をしているいろんな職種の人たちがいることを紹介します。資格が必要なものもあれば、スポーツ指導等、資格が不要な職種もあり、自分の好きなこと得意なことが武器になるかもしれない仕事である。と協力隊の紹介をします。

青年海外協力隊員たち  
 スポーツのコーチ  
 看護師  
 農業  
 獣医師  
 幼稚園の先生

### 6 私からのメッセージ

今後の人生(キャリア)、この女の子たちみたいに「ないものねだりよりあるもの探し」で、好きなことで「楽しんだもの勝ち」であり、協力隊に限らず好きなことは将来人生の武器になるかもしれないから、好きなことは大切に育てよう。というメッセージを伝えています。



出前講座のマストアイテムを教えてください。

ケニアで手に入れた服

何人かの受講者に試着体験をしてもらうことで、受講者全員と私の距離を縮めることが多かったためです。



\*ここでは講師の定番の講座の流れを掲載しています。実際は、各ご依頼のねらいやテーマなどに合わせて内容を構成して実施いたします。

# 講座 & 講師紹介 【JICA 海外協力隊編】

お名前

浅見博



コートジボワール 村祭りに飛び入り参加



ニジェール JOCV事務局長視察



チュニジア ジーンズ縫製工場訪問

派遣国

コートジボワール  
ニジェール  
チュニジア

職種

システムエンジニア  
協力隊調整員  
ネットワーク管理

派遣時期

2003年3月  
2009年5月  
2010年10月

出前講師の開始時期

2017年7月

## ● ご自身のことについて教えてください ●

JICA海外協力隊になろうと思ったきっかけは何ですか。

リストラで失業中、たまたま乗った中央線車内に吊られていた募集広告を見たことです。そこに写っていた女性隊員の瞳の輝きに惹かれ、説明会に直行してしまいました。

派遣国ではどのような活動をしていましたか。

- ①コートジボワール：道路整備計画支援に関連したPC指導
- ②ニジェール：青年海外協力隊員派遣に係る調整・支援、安全教育等
- ③チュニジア：工業振興庁のホームページに日本語サイトを設け、チュニジア産工業製品・農産物加工品等を日本へ紹介

## ● 出前講座について教えてください ●

出前講師のやりがいは何ですか。

子どもたちや中高生に海外に目を向けるきっかけづくりをしている、そんな手ごたえが感じられる事です。

講座の際にいつも心掛けていることは何ですか。

なるべく明るく元気よく語りかけるようにしています。それと少し難しくなりますが、私たちが日頃当たり前だと思っている便利なこと(コンビニやレストランの24h営業等)も、実は多くの外国の人たちの努力で成り立っていることは伝えたいと思っています。

ご自身の講座の定番ネタはどのようなものですか。

アフリカをテーマにしたクイズです。小学校では事前に担当の先生には答えを明かしておいて、あえて先生にパーフェクト賞を取っていただく、さすが先生！となって盛り上がります。

講座の中で、困ったことはありましたか。それをどのように乗り越えましたか。

初めはいろいろ紹介したくてプレゼンに説明を多く詰め込みすぎた結果、講演の時間が足りなくなりました。そのため説明文はより簡潔化する、文字より写真を多用する等の改善を施した結果、時間のコントロールがしやすくなり問題は解決しました。

日本の若者へメッセージをお願いします。

自分は語学が苦手だから海外には向かないと思っている皆さん、意志疎通の手段は「言葉」だけではありません。苦学して培った技能や技術、専門的な知識や能力なども立派なコミュニケーションツールです。勇気をもって一歩踏み出してみてください。

私の定番講座  
紹介します!

世界の課題や日本とのつながり、海外協力隊の活動を知り、自分たちにできることを考えよう!

《ご希望いただいたテーマ》国際協力、海外協力隊体験談 《スライド枚数》29枚 (講座全体で使用するパワーポイント)

### 1 クイズで導入

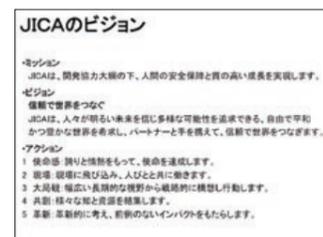
自己紹介代わりにいきなりクイズから始めています。花や動物など自然をテーマにしたものであれば、誰でもすっと入るのではないかと意図でこれを定番にしています。大体3問ぐらいです。この後自己紹介してメインに進みます。



この中にヒツジが3匹ヤギが2匹います。どれかわかるかな？(コートジボワール)

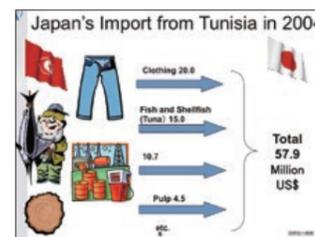
### 2 JICAとは? 国際協力活動とは?

そもそもJICAとは何をしているところなのかを、HPから引用して説明しています。小学生にはビジュアルで、中高生には活動目的、ビジョン等も説明します。高校生には就職先を決める際のビジョンの重要性を付け加えています。



### 3 活動紹介 ~PC指導、Webデザイン~

コートジボワールでのPC指導と、その後赴任したチュニジアでのHP作成業務などについて紹介しています。活動中は、HPやプレゼンテーションについても、イラスト素材を活用し誰にでもわかりやすい表現に努めていたことを伝えます。



### 4 派遣国紹介 ~困ったこと編~

どこでもごみを捨てる、野外排泄は当たり前、などの任国のあまり好ましくない部分も紹介します。合わせてこのような啓発ポスター等で対策にも力を入れていることを説明します。「これがアビジャンの思い出? もう絶対ヤメよう!」



### 5 日本とのつながり

バレンタインデー、ホワイトデーに欠かせないチョコレート。その原料のカカオは、コートジボワールが生産量世界No1であることを紹介すると、身近に感じてもらえます。そして、カカオは収穫後も意外に手間のかかることを伝えます。



### 6 みんなにできること

これだけ手間をかけて出荷しても、カカオ栽培農家の収益は低いことを伝えます。これでいいのかなという疑問を投げかける一方、フェアトレード等、国内でも身近なところから国際協力活動ができることもあるよ、というメッセージも伝えています。



出前講座のマストアイテムを教えてください。

コートジボワール北部カチョラ近郊で作られた伝統的タペストリー

ピカソも影響を受けたとされる素朴かつ印象的な絵柄が目を引きまます。また、かさばらず持ち運びにも便利です。



\*ここでは講師の定番の講座の流れを掲載しています。実際は、各ご依頼のねらいやテーマなどに合わせて内容を構成して実施いたします。

● ご自身のことについて教えてください ●

JICA研修員になろうと思ったきっかけは何ですか。

日本文化に興味があったのと、第二次世界大戦後の日本の迅速な経済復興に感銘を受けたことから、日本からたくさんを学びたいと思いました。また、ベナンの文化についてシェアする機会を持ちたいとも考えて、JICA 研修員になろうと決心しました。

日本では何を勉強していますか？

立教大学大学院にて、国際経営学を専攻しています。修士課程において、経営管理、広報、財務、投資について学んでいます。また日本経済、政治、行政プロジェクトサイクルマネジメント、経済開発、国際貿易に関する多くの知識とスキルを身につけています。

● 出前講座について教えてください ●

出前講師のやりがいは何ですか。

私の夢は大学の講師になることです。その夢に向けて、JICA 研修員として日本の若者に講座を行う機会は、私にとって大きな成果でした。私の出身国のベナンや、ベナンの文化等について様々な学校で伝えることができましたし、生徒たちとのかわりは興味深い経験となりました。

講座の際にいつも心掛けていることは何ですか。

講座をする際、すべての生徒が話についてきているのか、理解しているのかを常に気にしています。ですので、生徒の注意を引くために質問を続けたり、すべての生徒とアイコンタクトもとるようにしています。また、非常にシンプルで簡単な英語を話すようにしています。

ご自身の講座の定番ネタはどのようなものですか。

ベナンの料理紹介は私の定番ネタの一つです。ベナンの食事と日本食とは大きな違いもある一方で、驚くような類似点もあるのです。相違点と類似点を紹介すると、生徒たちはとても驚いて関心を示してくれます。実際にベナンに行き、食事や様々な体験をしたいと言ってくれる生徒もいました。

音楽やダンスを取り入れることもありますか？

障がいをもった子どもたち向けに行った音楽の講座はとても興味深いものでした。彼らが音楽に興味を持ってくれたことにとても感動しました。みなさんにアフリカの音楽に触れてほしいと思い、踊りや楽器を使って一緒に演奏したり、踊ったりして楽しむことができました。私にとっても良い機会となりましたし、彼らに希望を与えることもできたと思っています。



日本の若者へメッセージをお願いします。

日本の若い学生に対する私のメッセージは、努力し続けて、人生の目的を見つけたり設定したりしてほしいということです。目標に集中して、それを達成するために努力してください。また、他者とオープンに対話をして、どんな人とも良好な関係を築いてほしいです。皆さんがどんな場所でも、平和な世界や未来を作ってくれるように願っています。

ご本人の回答(英文)の日本語訳を掲載しております。

1 出身国紹介 ~ベナンってどんな国~

まずは、ベナンの基本概要を伝えるため、ベナンの地図を見せながら、人口や面積、首都などについて説明します。私が住んでいる場所や、ベナンの国旗も紹介しています。



2 出身国紹介 ~ベナンの産業編~

次にベナンの産業について紹介します。ベナンはアフリカで最も綿を産出している国の一つであることを伝え、このスライドでは綿花畑をお見せしています。



3 ベナン式あいさつ紹介

ベナンの挨拶の仕方を紹介しています。年長者に挨拶をするとき日本ではお辞儀をしますが、私の民族であるヨルバでは、女性はひざまずき、男性は寝そべる格好になります。日本とベナンの文化の違いを感じてもらえるように比較をしながら伝えています。



4 異文化理解 ~衣装編~

伝統衣装を実際に見てもらっています。ベナンでは多くの衣装は綿でできており、この写真のような模様です。男女それぞれに様々なスタイルがありますが、中でも「Bomba」と呼ばれるものが一般的です。講座当日には、伝統衣装を実際に身につけたりして、生徒たちに視覚でもベナンの文化を感じ取ってもらえるようにしています。



5 異文化理解 ~食文化編~

ベナンの主食を紹介しています。「Agoun」は、ヤムイモを練ったものでおもちに似ていて、「Gbadewo」は、トウモロコシを練ったもので、シチューなどと一緒に食べることを紹介します。また、ベナンでは、白いタピオカがありますが、日本で見かけるものとは少し違うことを説明したり、「Amon Soja」という日本の豆腐と同じものもあることを伝え、日本とベナンの食文化の違いと共通点を感じ取ってもらえるようにしています。



6 カルチャーショックと今の私

最後には、自分自身の経験をお話します。例えば、来日したころの私は、消極的で自分を閉ざしていました。生の魚や、肉なども食べませんでした。後々、食べてみるとおいしいと思うようになりました。生徒たちには、積極的に様々なことにチャレンジするようにメッセージを贈ります！



出前講座のマストアイテムを教えてください。

ベナンの衣装  
ベナンの男性用と女性用の衣装はとても独特で私たちの文化の一部となっています。日本の服との違いを見て触って感じてもらうために、アフリカの伝統衣装を実際に着て講座を実施することもあります。



※ここでは講師の定番の講座の流れを掲載しています。実際は、各ご依頼のねらいやテーマなどに合わせて内容を構成して実施いたします。  
※ JICA 研修員が行う講座は、基本的に英語で実施しています。

# 講座 & 講師紹介 【JICA 専門家編】

# 講座 & 講師紹介 【JICA 職員編】

お名前 枝信宏  
 所属 JICA 人間開発部  
 在外派遣国 ケニア、エチオピア、ニジェール、セネガル  
 在外派遣期間 約11年  
 出前講師の開始時期 JICA 専門家以前の NGO 職員時代も含めれば 1999年 (JICA 専門家経験者としては) 2007年

お名前 若井将貴  
 所属 エチオピア事務所  
 在外派遣国 エチオピア  
 在外派遣期間 2019年6月〜現在

## ● ご自身のことについて教えてください ●

## ● ご自身のことについて教えてください ●

**JICA 専門家になろうと思ったきっかけは何ですか。**  
 それまでの国際協力 NGO での経験を活かし、現地の人々の役に立つきめの細かい協力を広域展開につなげ、より豊かな生活を実現する力になりたかったため。

**ご専門の分野、業務について教えてください。**  
 基礎教育分野のアドバイザーとして、協力方針の検討、個々のプロジェクト形成、及びその実施監理に際して助言したり、成果を国内外で発信したりしている。専門は基礎教育、特にアフリカでのコミュニティ協働型教育開発や研修・普及体制構築。

**JICA 職員になろうと思ったきっかけは何ですか。**  
 旅行でエチオピアを訪れた際、現地の方々にお世話になったこと。

**ご専門の分野、業務について教えてください。**  
 大学では経済学を学んでいましたが、入構後は東京本部で民間企業の海外展開支援や農業事業形成 / 監理を行い、現在はエチオピアの在外事務所産業振興分野の事業監理形成を行っています。

## ● 出前講座について教えてください ●

## ● 出前講座について教えてください ●

**出前講師のやりがいは何ですか。**  
 国際協力の醍醐味や、「貧困」と一言で片づけるべきでないアフリカの様々な顔を参加者と共有し、それを前向きに受け止めてくれる参加者に会えること。

**講座の際にいつも心掛けていることは何ですか。**  
 講座の対象によって言葉遣いや難易度を調節、講義の途中で参加者の理解をこまめに確認、個々の考えに正解や優劣はないことを強調、発言の苦手な参加者にも発言の機会、講師の体験談や感想文を超えて参加者自身の気づきにつながる普遍的なメッセージ、等々。

**ご自身の講座の定番ネタはどのようなものですか。**  
 アフリカ各地の様々な「教室」、日本人が食するタコの産地(輸入元)、日本もかつては被援助国、国際協力≠上から目線の援助、貧困≠教育への無関心、日本の教育や学校にも課題(対岸の火事ではない)、等々。

**講座の中で、困ったことはありましたか。それをどのように乗り越えましたか。**  
 限られた時間の中で、参加者(生徒等)の積極的な参加を引き出せず終わったことも。発言が苦手な参加者にも配慮し、学んだことや考えたことをワークシートに記入してもらったり、クイズ形式にしたりといった工夫は有効。

**いつごろから出前講師をしていますか。**  
 国際協力業界で農業人材が不足していることから、農業高校の生徒たちに国際的な視野をもってもらい、将来の選択肢の一つとして捉えてもらうべく出前講座を担当していました。2018、2019年に農業高校で出前講座をさせていただきました。

**出前講師のやりがいは何ですか。**  
 日頃関わることのない高校生からの反応に触れることで、日頃行っている業務の面白さが再発見でき、モチベーションが上がりました。

**講座の際にいつも心掛けていることは何ですか。**  
 知らない国の話で退屈すると思い、海外のお菓子や有名人が出演する協力隊動画など、生徒の方々に気軽に授業に臨んでもらえるような内容を心掛けていました。

**ご自身の講座の定番ネタはどのようなものですか。**  
 海外のお菓子紹介 → 産地紹介 → 担当する農業事業紹介 (例: チョコ → ガーナ → 残留農薬関連事業)

**講座の中で、困ったことはありましたか。それをどのように乗り越えましたか。**  
 高校生は食欲旺盛で、持参したお菓子がすぐに底をついた際は困りましたが、焙煎したコーヒー豆をそのまま食べ始めた高校生に救われました。

出前講座のマストアイテムを教えてください。

日本が右端に位置している 欧米製の世界地図



☞ 世界各国から見れば日本は世界の中心ではなく、極東の小国でしかないことが一目瞭然に示せるから。



日本の若者へメッセージをお願いします。

私たち日本人は、私たちの力だけで生きていくのではなく、地球上のすべての国々や人々と相互に支え合って生きています。お互いを対等なパートナーとして尊重し、どこにいても、それぞれの立場で実践できる国際協力に携わってほしいです。

出前講座のマストアイテムを教えてください。

お菓子



☞ 高校生のお菓子に対する反応が非常にいいから

日本の若者へメッセージをお願いします。

エチオピアは想像以上に住みにくいです。が、意外に楽しいです。是非、世界に一步を踏み出してみてください。



# よくある質問

## ●●●●●●●●●● 申込について ●●●●●●●●●●

Q 講師への交通費や謝金のお支払いはどうしたらよいのでしょうか？

A 講師へ直接のお支払いをお願いします。お支払いに関する手続き等も、講師ご紹介後、直接講師にご連絡ください。謝金の目安は講師一人1時間あたり4,600円ですが、学校や自治体の謝金単価基準がある場合にはその基準に準じる形で構いません。(P.5参照)

Q どのような内容で申し込んだらよいか悩んでいます。

A 講座を成功させる秘訣は、目的(ゴール)の設定です。明確なゴールがあり、講師と共有できるとより良い講座になることが多く、一方で目的が曖昧で、講師にも伝わっていない場合には、その逆になってしまうこともあります。詳しくはご相談ください。(P.9参照)

Q 研修員に講師を依頼する場合は英語ですか？

A はい。要請書も英語で記載いただき、その後の打ち合わせ、当日の講座も英語になります。通訳が必要な場合は、ご自身で手配をお願いします。通訳の手配は行っておりません。(P.10/11参照)

Q 各クラスで行いたいのですが、複数の講師を希望することもできますか？

A はい。複数の講師を依頼いただくことも可能です。その際には、講師決定までに時間を要しますので、お早めにお申し込みください。また、各講師はパワーポイントを使って講座を行いますので、会場ごとにプロジェクター等のご用意をお願いいたします。(P.7/8参照)

Q 本校の特色に合わせ、講師の専門分野を指定して依頼することはできますか？

A はい。保健・医療、社会福祉、教育、スポーツ、文化、環境、商業、などの分野で活動した講師がおりますので、可能な限りご希望にお応えしています。(P.4/9/14参照)

Q 調べ学習をしている関係で、特定の国のお話を伺いたいと思っています。

A JICAが事業を実施している、アフリカ、中東、アジア、大洋州、中南米などの地域(先進国を除く)で活動してきた講師をご紹介します。海外協力隊の派遣がない国や講師の人数が少ない国もあります。(P.4/9/14参照)

Q いつまでに申し込みればよいですか？

A 講座実施の3カ月～1か月前までに「講師紹介要請書」をお送りください。(P.6参照)  
<https://www.jica.go.jp/tokyo/enterprise/kaihatsu/demae/application.html>

## ●●●●●●●●●● 講座内容について ●●●●●●●●●●

Q 文化紹介はどのようにしているのですか？

A 民芸品や衣装、通貨、おもちゃなど実際に触れられるものを可能な限り用意しています。その際は視覚・聴覚・触覚・嗅覚をフル活用してもらうように伝えています。また、音楽を聞いたり、衣装を試着したりすることもあります。

Q 小学生にも分かりやすく伝えていただきたいです。

A 写真や動画を多く使い、文字の少ないスライドでお話しています。また、クイズを入れたり、写真から読み取ったりする活動を入れて、飽きさせない工夫をしています。

Q 30分など、短い時間でも講座を行っていただくことは可能ですか？

A はい。時間が短いときには、参加者がどんなことに興味があるのか、最低限伝えるべきことなどを事前に教えていただくと内容を絞りやすくなります。

Q 45分の講座の中で質問も受けていただきたいのですが。

A 最後に「質問タイム」を設けるようにしています。短時間でも多くの質問に答えられるよう、担任の先生に児童・生徒を指名していただくなどフォローしていただくと大変助かります。

Q 講師との事前打ち合わせの方法は？

A 方法は問いませんが、メールや電話での連絡が多いです。直接会っての打ち合わせをする場合は、交通費のご負担をお願いします。講座を成功させるためにも講師との事前の打ち合わせは必ず実施ください。(P.6参照)

Q 当日の機材は、学校で準備したほうが良いのでしょうか？

A はい。プロジェクターなどは学校でご準備ください。また、パソコンの準備やUSBメモリ等の使用可否についても、事前に講師にお伝えください。機材についての当日のトラブルを避けるためにも、講師と事前に打ち合わせをお願いいたします。(P.8参照)

Q 遠い国のお話(他人事)にしたいくないと思っています。

A 受講者にできるだけ自分ごととして考えてもらえるように、小グループや周囲の人と意見交換をする時間を設けるなどの工夫をしています。受講生に問いかける際も、なるべく身近なものに関連させるように心がけています。講座で目指すゴール等について、明確に講師にお伝えいただくと、要望に合わせて内容を組み立てることができます。

Q 大人数での講座でも対話的に進めていただけますか？

A クイズや、前後4人でのディスカッションを行うことで、一方通行に終始しない講座にすることができます。講座のゴールを担当の先生と講師が共通理解したうえで、どのような進め方が良いのか一緒に検討させていただきます。

Q 外国に関心のある生徒はあまり多くいないのですが大丈夫でしょうか？

A 日本とのつながりを伝えたり、生徒の身近な話を入れりすることで、親近感を持ってもらえるよう話しています。できるだけ同年代の子どもの写真や、日常生活について話す工夫もしています。

Q 本校の特色に合わせた内容でお願いしたいのですが。

A 事前打ち合わせで、ねらいや参加者の実態などを教えていただくと、そちらをふまえた内容を検討することができます。学校や受講者について、できるだけ多くの情報をお伝えいただけますと大変参考になります。

Q 周りに遠慮して発言を控えてしまう雰囲気があります。

A 発言しやすい雰囲気をつくるため、講座の初めに民族衣装の紹介、簡単なアイスブレイクをすることもあります。また、講師から指名をして発言を促すと、答えてくれることが多いです。

Q 事前学習を行っていますが、当日の講座と関連付けていただけるのでしょうか？

A 事前学習の内容をふまえ、そちらに関連付けて内容を考えることができるので、事前の打合せの際に講師にお伝えください。また、事前学習用資料としてJICA、JICA海外協力隊について簡単に紹介した資料がございます。講師決定連絡の際にお知らせしておりますので、ご活用ください。

Q 配布物がありますか？

A メモを取ったり考えをまとめたりするのに効果的なので、用意することもあります。事前打ち合わせの際に確認をお願いします。配布物がある際には事前に学校へお送りして、学校で印刷していただくのが一般的です。

Q 現地の最新の情報を教えてほしいのですが。

A 帰国後年数がたっている講師もいますが、インターネットや現地の知り合いなどから新しい情報を手に入れ、情報を更新するようにしています。また、自分の手元に必要な写真や民芸品、衣装等がない場合でも、仲間から借りて講座で紹介することもあります。

※こちらの「よくある質問」は、実際に講座を担当いただいた講師の方々にご提出いただいている報告書をもとに作成しております。

## 国際理解教育／開発教育のための JICAプログラムのご案内

JICAでは、世界の現状や発展途上国が抱える課題への理解を深めるため、学校現場で活用いただける国際理解教育／開発教育の支援を行っています。

先生方や児童・生徒の皆さんに参画いただけるプログラムの実施や各種教材作成も行っています。

### 教師海外研修



国際理解・開発教育に関心を持つ教職員を対象に、世界の課題と日本との関係、国際協力の必要性について学んでいただくことを目的としています。また、帰国後は、所属校にて研修成果を生かした授業を行い、学校における国際理解・開発教育の推進を担っていただきます。

JICA 東京では、持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals: SDGs) を研修テーマとして設定しており、世界の課題を自分事として捉え、地域の課題にも目を向け、主体的に行動できる児童・生徒の育成を目指しています。



詳細はこちらのJICA東京ホームページ内教員研修の概要ページをご覧ください  
▶<https://www.jica.go.jp/tokyo/enterprise/kaihatsu/kaigaikenshu/index.html>

### 国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト

JICAでは、開発途上国の現状や国際協力の必要性について理解を深め、自分たち一人ひとりがどのように行動すべきかを考えることを目的に、中学生・高校生を対象としたエッセイコンテストを毎年実施しています。

上位入賞者には、副賞として開発途上国へのスタディツアーに参加する機会が与えられます。毎年、7万点を超える作品が寄せられています。夏休みの宿題や作文指導としてもご活用ください。過去の上位入賞者は、全国的なコンテストでの受賞歴として、大学の推薦入試でも評価されています。



後援：外務省、文部科学省、各都道府県教育委員会、日本私立中学高等学校連合会など

### 「世界の笑顔のために」プログラム



開発途上国で必要とされている、教育、福祉、スポーツ、文化などの関連物品を提供いただき、JICAが派遣中の海外協力隊を通じて世界各地へ届けます。国内の指定倉庫までの送料はご負担いただく必要がありますが、現地までの送料をJICAが負担いたします。個人での参加はもちろん、学校やクラス単位でもご応募いただけます。



### 海外協力隊



開発途上国では、まだまだ教育分野に課題があり、小学校教育、理科教育、数学教育、体育等の教員派遣ニーズが多くあります。日本での教員経験を開発途上国で活かすこともできます。



### 地球ひろば訪問／実体験プログラム

JICA 地球ひろばでは、開発途上国の暮らしの現状や地球が抱える課題、国際協力の実情などを見て・聞いて・さわって体験できる展示と開発途上国での活動体験談や参加型学習・ワークショップを組み合わせたプログラムを実施しています。JICA 地球ひろばにお越しいただいたみなさんをお迎えするのは、民族衣装を着た「地球案内人」と呼ばれるガイドです。地球案内人はJICA海外協力隊として国際協力の現場での活動経験をもつ者です。修学旅行や社会科見学。総合学習などでぜひご利用ください。



#### JICA 地球ひろば(東京都新宿区市ヶ谷)

開館時間：10時～20時(平日)／10時～18時(土・日・祝)  
休館日：第1・第3日曜日、年末年始  
入館料：無料  
連絡先：〒162-8433 東京都新宿区市ヶ谷本村町10-5  
TEL：03-3269-2911／0120-76-7278

## 国際理解教育／開発教育のための教材

### 授業で使える教材、家庭で学べる JICA 教材

国際協力活動や世界の様々な国、グローバルな課題とその解決方法について知るために、授業や家庭学習で活用いただける教材や映像、PDF データがあります。

JICA 教材

ワークシート多数掲載！  
『国際理解教育実践資料集』



SDGs 情報満載！  
『共につくる私たちの未来』



世界の水、保健、食料、砂漠、教育を知る  
『僕らの地球調査隊』



### JICA 東京・オリジナル教材、報告書

JICA 東京に関わる隊員経験者、教師研修参加者の協力を受けて作成・編集した人気の教材です。

JICA 東京 教育支援事業

JICA 海外協力隊経験者が伝える世界各地の学校、生徒の様子『世界の教室から』  
(フォトランゲージ教材つき)



JICA 東京教員研修(海外・国内)参加教員  
『授業実践報告書、授業で使った教材』  
(スライド、プリント等多数)



### 先生のお役立ちサイト ～映像教材、SDGs 教材なども満載～

上記で紹介しているほかにも、映像教材(消費者教育教材資料表彰・内閣特命担当大臣賞受賞作品も!)や印刷して使える SDGs 教材など、先生方のお役に立つ情報を提供しています。



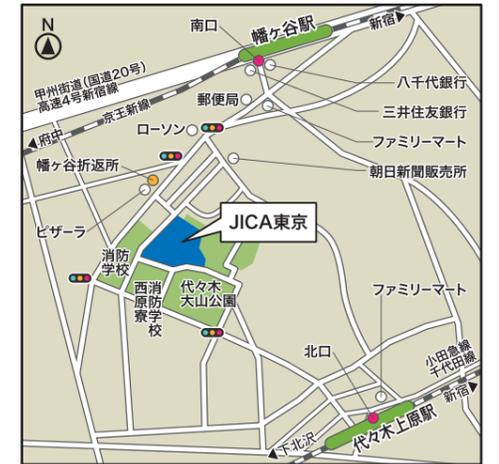
JICA 先生のお役立ち

## あなたの近くの JICA 相談窓口

### JICA 東京

1都5県(東京都・千葉県・埼玉県・群馬県・新潟県・長野県)の開発教育支援事業などの市民参加協力事業や研修員受入事業を担当しています。

〒151-0066 東京都渋谷区西原2-49-5  
市民参加協力第一課 03-3485-7461  
Eメール: jicajgp-kyoiku@jica.go.jp



### 国際協力推進員

あなたに一番近い JICA 窓口です。開発途上国で活躍した経験を持つ国際協力推進員が、各地域の JICA デスクで皆さんのお越しをお待ちしています。

- 埼玉県 (公財) 埼玉県国際交流協会内  
電話: 090-4024-0253  
Eメール: jicadpd-desk-saitamaken@jica.go.jp
- 千葉県 (公財) ちば国際コンベンションビューロー内  
電話: 090-4024-0441  
Eメール: jicadpd-desk-chibaken@jica.go.jp
- 群馬県 (公財) 群馬県観光物産国際協会内  
電話: 090-4024-0097  
Eメール: jicadpd-desk-gunmaken@jica.go.jp
- 新潟県 (公財) 新潟県国際交流協会内  
電話: 090-4024-1323  
Eメール: jicadpd-desk-niigataken@jica.go.jp
- 長野県 (公財) 長野県国際化協会(ANPI)内  
電話: 080-1043-2268  
Eメール: jicadpd\_desk\_nagano@jica.go.jp

詳しくはコチラ

JICA 窓口



独立行政法人国際協力機構  
東京センター

〒151-0066 東京都渋谷区西原2-49-5  
市民参加協力第一課

Tel : 03-3485-7461

E-mail : [jicajgp-kyoiku@jica.go.jp](mailto:jicajgp-kyoiku@jica.go.jp)

<https://www.jica.go.jp/tokyo/index.html>

